

## LS研 2010年度短期分科会 研究テーマ概要

◆各研究テーマの研究内容・参加者の参加条件などご確認の上、お申込みください。

短期分科会		No. 1	I F R S (国際財務報告基準)の導入に伴う問題点・課題の検証
研究内容・研究方針 (背景・現状の課題、 研究目標・方向性)		I F R S (国際財務報告基準)は2012年に適用方針が決定され、強制適用決定の場合、上場企業は2015年または2016年に連結財務諸表をIFRSに基づいて開示する必要がある。会計基準の変更は、経理・財務部門の影響だけではなく、収益認識方法の変更等に伴う業績評価方法や販売・物流などの業務プロセス、ならびに、それらを支える内部統制制度や情報システム等広範囲に影響を及ぼすと想定される。現状想定されている変更内容を踏まえ、I F R S適用にあたっての業務/情報システム検討の方向性を研究する。	
参加条件	対象部門 ・クラス	情報システム部門/経営企画部門/財務、経理部門/I T企画部門の課長	
	前提スキル ・経験	I F R Sの適用を検討中の方	

短期分科会		No. 2	高度な信頼性を求めるシステムのための形式手法の適用
研究内容・研究方針 (背景・現状の課題、 研究目標・方向性)		<p>ソフトウェア不具合による障害は後を絶たないが、解決の一手段として海外では、重要インフラである航空・鉄道、電力・ガス・水道等のシステム開発への形式手法の適用が進みつつある。国内でも組込み系への適用は既に実用段階にあり、企業の業務系でも形式手法の一種であるモデル検査技術のテスト工程への適用（富士通研究所）など、取組みが広まりつつある。国内外における形式手法の適用事例、ツール、技術者向け研修等を調査・分析し、システム開発における形式手法の適用方法について研究する。</p> <p>※形式手法は、計算機科学における数学を基盤としたソフトウェアおよびハードウェアシステムの仕様記述、開発、検証の技術であり、開発工程でエラーが入り込まないことを保証する手法である。</p>	
参加条件	対象部門 ・クラス	情報システム部門の課長、リーダー	
	前提スキル ・経験	ソフトウェア開発の新しい手法を学んでみたい方（数学・論理学の知識要）	

## LS研 2010年度短期分科会 研究テーマ概要

短期分科会		No. 3	I T活用による環境負荷軽減への貢献
研究内容・研究方針 (背景・現状の課題、 研究目標・方向性)		2010年4月より改正省エネ法が施行され、従来は規制対象外であった企業の多くがエネルギー使用量を把握し報告と省エネの推進が義務付けられることが予想されている。国としても温暖化ガス削減の数値目標(マイナス25%)も掲げられ、温暖化情報の開示要求、低炭素社会への移行など、企業の経営環境は目まぐるしく変化していく中、情報システム部門としてI Tの活用によって実現出来る環境負荷低減の方法とその効果や課題について、例えばペーパーレス、人、モノの移動の削減、使用電力の見える化などの観点で、I T技術や事例調査などを基に検討する。	
参加条件	対象部門 ・クラス	経営企画部門／総務部門／I T企画部門／情報システム部門のリーダー、担当	
	前提スキル ・経験	環境負荷軽減のためのI T活用に取り組む予定の方、関心ある方	

短期分科会		No. 4	プロジェクトに有効なPMOのあり方
研究内容・研究方針 (背景・現状の課題、 研究目標・方向性)		<p>PMOは定着化の傾向が見える一方で、企業によって取り組みや機能はまちまちで有り、役割や登場シーン、期待も拡がっている。有効なPMOの機能や評価方法、またプロジェクトマネジメントを組織的な観点で向上させるための取り組みなどについて、様々な企業の事例研究を基に意見交換を行い、今後求められるPMOの有り方について検討する。</p> <p>※PMO(プロジェクト・マネジメント・オフィス)は、組織におけるプロジェクトマネジメントを統括・管理することを専門として設置された部門のことであり、組織全体のプロジェクトマネジメントを総合的に管理することによって組織全体のプロジェクトマネジメントの品質や能率の向上、複数のプロジェクトの連携や調整も図ることができる。</p>	
参加条件	対象部門 ・クラス	情報システム部門の部長、課長、リーダー	
	前提スキル ・経験	PMO、およびPM育成部門の方	